

半歩前進

医歯学総合病院・医員(研修医)
塚田大幹



人間は時間が経つとすべてをすてきな思い出に変えてしまう生き物なのだろう。嫌なこともたくさんあったはずなのに、総診のことも、ただ「俺ってまずまずよくがんばった」というあやしげな充実感としか残っていない。自分はいったい何にこんなに満足したんだろう。どんなことが楽しかったんだろう。

あっかなびつくりタービンを持って削り(削る真似?)、たまに勘にも頼りつつ汗だくでポケットを測り、ほっぺた吸いつつアクロバティックにスケーリングした。印象が外れなくてあせったかと思ったら、結局模型に気泡を入れてがっかり。技工はさっぱり好きじゃなかったけど、いざ患者様の口に入ったFOKを見てちょっと感動。「痛い痛い」と訴えられていた患者様に「痛くなくなりました」と言われ、何だか誇らしい気持ちになったことも…MSコート塗っただけです、はい。

患者様には時に不安な思いをさせ、つらい体勢で我慢してもらい、いろいろお話をした。分かりやすく話そうとしすぎて混乱させたりもした。先生にはなかなか会えず、やっと会えたと思ったら怒られ、ごくまにほめられた。先生も人間なんだから少々の理不尽もやむをえないかと思うようになった。看護師さんには愚痴を聞いてもらい、励まされ、やっぱり時々小言も言われた。技工士さんにはご迷惑と知りつつも甘えまくった。患者様の次に天使のように優しい人たち。そして同級生には助けられ、刺激された。まあどうしようもなく腹が立つ奴もちらほらいたけど…。

総診とは直接関係ないけど、友人に誘われて学会に行ってみたりお手伝いしてみたり。歯科医師会の仕事をしたり開業医さんと話したりもした。

こんなにも初体験が盛りだくさんだった一年はなかなかない。そして良くも悪くも多くの人に出会えた、多くのことに関わられた。元々すごく歯医

者になりたくて歯学部に入ったわけじゃなかったからか、5年生までの実習の日々がただただ苦痛だった自分が、すてきな患者様や先生に出会ったり、外の世界を垣間見たりできたことで少し視野が広がり、歯医者もかなりいい仕事なんだと思うようになった。いや、前から思っただけだけど、実感したのかな。特に総診終わるときに、ある患者様からもらったお手紙はうれしかったなあ。今や家宝級。

総診での一年間は、決して卒業のためだけにあった時間じゃなかったはずだ。社会人としての大切な半歩目にしたい。このきっかけを忘れずに進んでいけば、何十年後かにちよつぱり胸を張れる人間になれるんじゃないかと思うので。あ、自慢できる仲間ができたという点では、すでに僕、胸を張れます。もしやこれが充実感の基なのかも。

どうして歯科医師を目指しているのか

医歯学総合病院・医員(研修医)
長澤麻沙子



これは私が総合診療部で過ごす毎日の中で常に自問していたことである。医学とは何か、医療とは何か、医者とは何か、病気とは何か、病人とは何か、人間とは何か。滔々と考えた末に自分はどうありたいのかという問いに終着する。

『医学とは研究により医術を生み、その医術により医療が行われる』

これは私が総合診療部で過ごす毎日の中で噛み締めたことである。医療とは人と人とのコミュニケーションのうちに医術を施すものであり、医療と医学は医師にとって、その中で常にどのような関係であるべきかは医師の個性に委ねられていると思う。私が医師を志そうと思った昔の思いは、医学という学問の中でだいぶ薄まっていると感じた時期もあった。実際、歯科医療に携わるようになり、大学で学んだ医学とその技術とを、そのま

まの形で正確に、現実の生活者としての患者に提供することは、当たり前だが実際はまったく容易くない。日々の診療の中で知識と実際の間には大きな谷間があると感じながらも、今の私にできることは、いかに患者である人間を全体的にとらえて真剣に診療しているか、という事だと考えている。

『自分だったらこうしてもらいたいと思うけどね』

私が学ばせて頂いている総合診療部には病気を観るのではなく、人間を診る指導医の先生方が大勢いらっしゃる。幸せな環境に置かせてもらっていると感じると同時に、私を歯科医師として育ててくださる先生方と患者様に対して、畏敬と感謝

の念が尽きることはない。

私は歯科医療の責任を自覚、実践することによりプロフェッショナルとしての自信、誇り、威厳を感じる先生方を目標にしたいと思い、そして多くの意味でこの気持ちをいつまでも持ちつづけられたらいいなと感じている。

…このように私が総合診療部で感じた事は、歯科医師としてまだ何の知識も技術も持ち合わせていない、今現在の私だからこそ言えることだと思っている。そしてこの気持ちはこれから先、歯科医師として、そして人間としておそらく大切にすべき、忘れてはならないものだと感じている。

